

「リーダーの一流、二流、三流」という本からです

三流は、すべての仕事より優先させ、二流は、断る勇気を持ち、
一流は、あらかじめ用意した「予備時間」で対応する

リーダーCさんは、上司から頼まれた仕事は常に最優先でやるべきだと思っていました。お客様からの仕事を抱えている場合でも、できるだけ上司のリクエストに応えようと、早く対応するようにしていたのです。そんなすぐ動くCさんですが、意外なことに上司からの評価はあまり高くありません。

なぜなら、部下から頼まれた複雑な案件を後回しにしたり、自身の仕事を渋滞させ、後ろの工程で仕事をする人に迷惑をかけたりにすることが、少なくなかったからです。

一方、別のリーダーBさんは、お客様からの仕事や部下からの相談を最優先にしていました。上司のムチャぶりがあった場合は、他の仕事を後回しにしたりせず、期限をできるだけ延ばして対応していたのです。どうしても他の仕事で手一杯な場合は、勇気を出して「できません」と断るようにしていました。

しかし、Bさんのやり方では、一流のリーダーとは言えません。一流のリーダーは、できるだけ、上司のリクエストに応えようとします。もちろんお客様とのアポイントが1時間後にあるのに、3時間以内で対応といった無茶なリクエストには応えなくていいですが、ある程度良識のある依頼なら、必ず応えます。また、上司に限らず、お客様からの急な依頼にもきちんと迅速に対応します。

一流のリーダーAさんは、常に予備時間を確保して対応していました。予備時間とは、いわゆる予定が入っていない空白の時間です。「空白の時間をつくるなんて、サボっているのと同じではないか?」と、思われた方は、注意が必要です。むしろ予定がびっしり詰まったスケジュールにしているのは、一流のリーダーとは言えません。それどころか、リーダー失格です。「調整」というリーダーの仕事をする機会が持てません。

金融経済用語で「イベントリスク」という言葉があります。イベントリスクとは、事前に予測できない出来事によって引き起こされる混乱のリスクのことを言います。一般社員に比べてリーダーは、このイベントリスクがかなり多くなります。何かというときに相談してくる部下、不意にチームの状況を知らせてくれと言ってくる上司からの予測できない仕事は、多く発生します。一流のリーダーは、このリスクにそなえた「予備時間」をあらかじめ用意しています。「予備時間」で、急な上司からの依頼、急なお客様からの依頼、部下からの相談に対応するのです。仮に割り込み仕事が入らなければ、新しい企画を考えたり、新規顧客のリストアップをしたりといった時間にあてればいいのです。特にリーダーはルーティンワーク以外の新しい商品を生み出す仕事や、利益を生み出す仕事を求められます。そういった意味でも、予備時間は必ずとっておく必要があります。

このように、リーダーが予備時間をつくっておくのは必須と言えます。

特にリーダーはルーティンワーク以外に何が求められていますか？

()